

# 条件句の日中対照

——「ば」・「たら」・「なら」・「と」をめぐって——

キーワード

複文 / 复句    条件句 / 条件句    仮定 / 假設    関連詞語 / 关联词语

鈴木 義 昭

日本語を学ぶ外国人学生を悩ませるものの一つに、「ば」・「たら」・「なら」・「と」の使い分けがある。何故ならば、これら四種の語がそれぞれに複雑な意味を持ちながら、それでいてなおかつ、相互に重複した意味を持っているからである。これに学習上の困難を感じる点では、中国人学生といえども例外ではない。

上記四語は、一般的には日本語教科書、初級の後半部分、条件を表す複文の中に出て来ることが多い。そこで本稿では、日本語の初級文型としての「ば」・「たら」・「なら」・「と」について、主として現代漢語(以後、中国語のことを漢語と呼ぶことにする)の側から、その対照を行なってみたい。

## 1

早稲田大学日本語研究教育センター編『外国学生用 日本語教科書 初級』(以下、『日本語教科書』と略称する)においては、「ば」を三十二課、「たら」を三十三課、「なら」を三十四課、「と」を三十五課というふうに、連続的に扱っている。問題点が明らかになるよう、以下にその例文を挙げておく(漢語訳は、『日本語教科書文法解説——中国語版』による)<sup>1)</sup>。

1) 『外国学生用 日本語教科書 初級』には、すでに英語・ドイツ語による「文法解説」が刊行されており、中国語によるそれは、まもなく出版の予定である。筆者は、日本語文法研究会による原稿作製、翻訳作業に参加した。

「ば」は、

I 1 a 本をみれば、わかります。

一看书就懂了。

b 本を読めば、わかります。

一看书就懂了。

2 a つごうがよければ、今週から伺います。

如果方便的话，从这星期开始找你。

b 本が読みたければ、貸してあげます。

要想看书的话，我借给你。

c わたしがうちにいなければ、父が教えます。

要是我不在家，我父亲教给你。

つごうがよくなければ、来週から伺います。

如果不方便的话，从下星期开始找你。

本が読みたくなければ、困りますね。

要是不想看书就不好办了。

3 規則を覚えればやさしいのだが。

掌握了规则就不难，……

とある。

「たら」は、

I 1 a 切符が売り切れだったら、……

票子卖完了的话，……

b 歩くのがいやだったら、……

如果你不愿意走去的话，……

c 切符がなかったら、……

没有票子的话，……

とある。

「なら」は、

I 1 a 火曜日なら、ありがたいです。

星期二的话，就再好不过了。

b 火曜日がいい(の)なら，そうしましょう。

如果星期二方便的话，就这样决定吧。

c 場所を変える(の)なら，前もって連絡してください。

要是换地方的话，请提前告诉我们。

d それをもう読んだのなら，ほかのものを読みましょう。

如果那本已经看过的话，那就看别的吧。

とある。

「と」は，

I 2 都市が発達すると，いろいろな問題が起こる。

城市(高度)发展，会带来各种问题。

とある。

## 2

現代漢語において，日本語で言う条件句は「復句」(複文)の中に出て来る。復句の分類は文法学者によって各者各様，極めて多岐に亘っている。本稿では仮りに刘月华等著『现用现代汉语语法』(外语教学与研究出版社1983)に基づいて話を進めることにする<sup>2)</sup>。こうした復句は，一般的には「联合复句」(対等の複文)と「偏正复句」(非対等の複文)<sup>3)</sup>とに大別される。いずれも，前節と後節の相関関係によって分けられている。本稿で扱うような，「主節」・「従属節」から成る文を偏正复句と言うわけである(復句の分類について，詳しくは後稿を予定)<sup>4)</sup>。

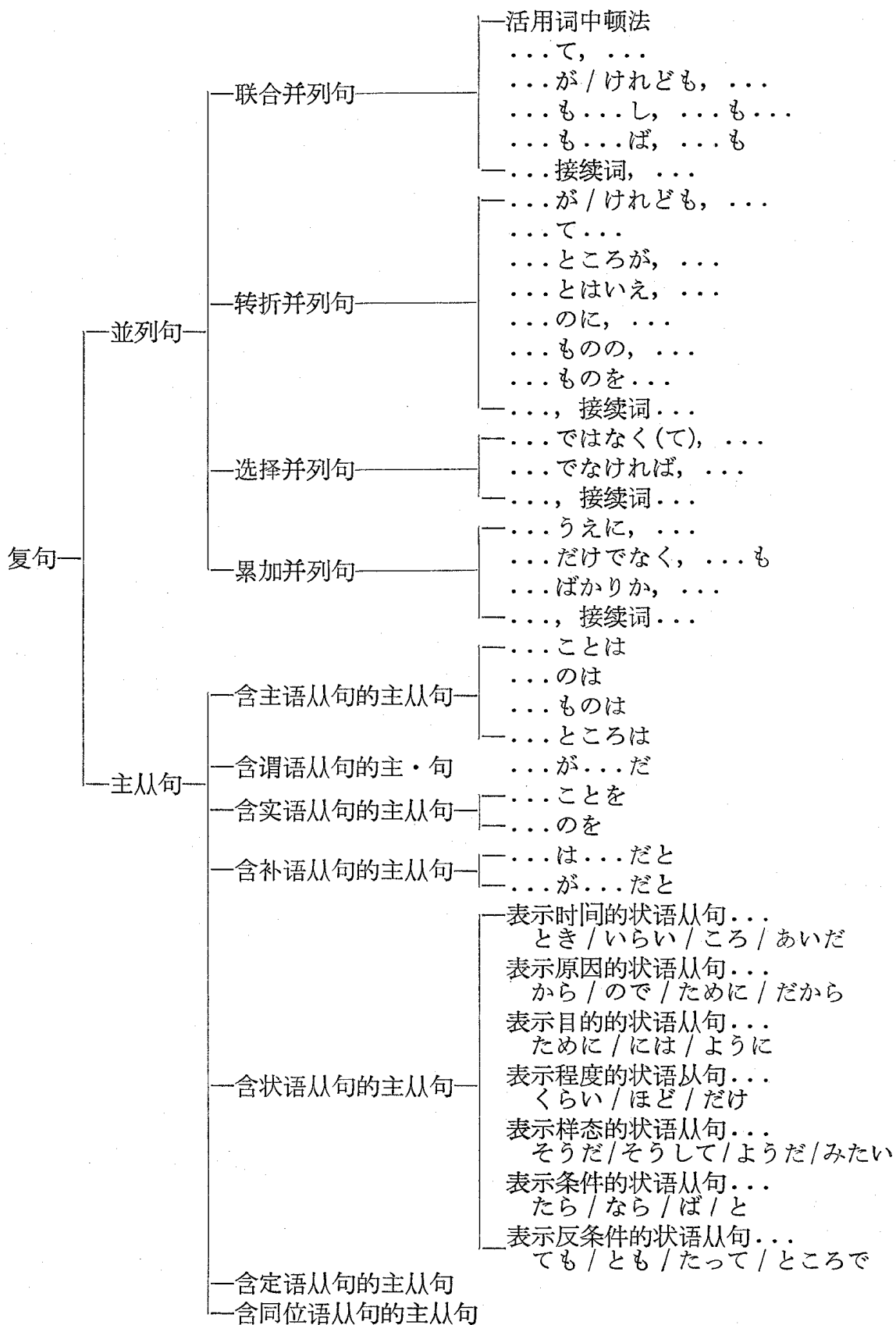
---

2) 次稿「中国語の複文の分類」(仮称)で詳しくは述べるが，刘月华等著『实用现代汉语』の他に，叶苍岑主编『现代汉语语法基本知识』(北京教育出版社 1986)，刑福义「复句的分类」(语文出版社 1987 中国社会科学院语言研究所・现代汉语研究室編『句型和词』所収)・张静著『汉语语法问题』(中国社会科学出版社 1987 等の分類の仕方があり，中でも最もスクールグラマー的要素の強い本書をその例として挙げることにした。

3) 「対等の複文」・「非対等の複文」という言い方は，前件と後件とが対等の関係にあるかどうかを基準とした筆者の命名である。

4) 注2に述べた「中国語の複文の分類」(仮称)を指す。

图—1



ただ、復句 / 複文の分類は日本と中国とで必ずしも一致しているというわけではない。例えば、『現用現代汉语语法』では、条件復句は図—2にあるように、これを「特定条件句」(特定条件の複文)、「无条件句」(無条件の複文)とに分ける。特定条件文とは、

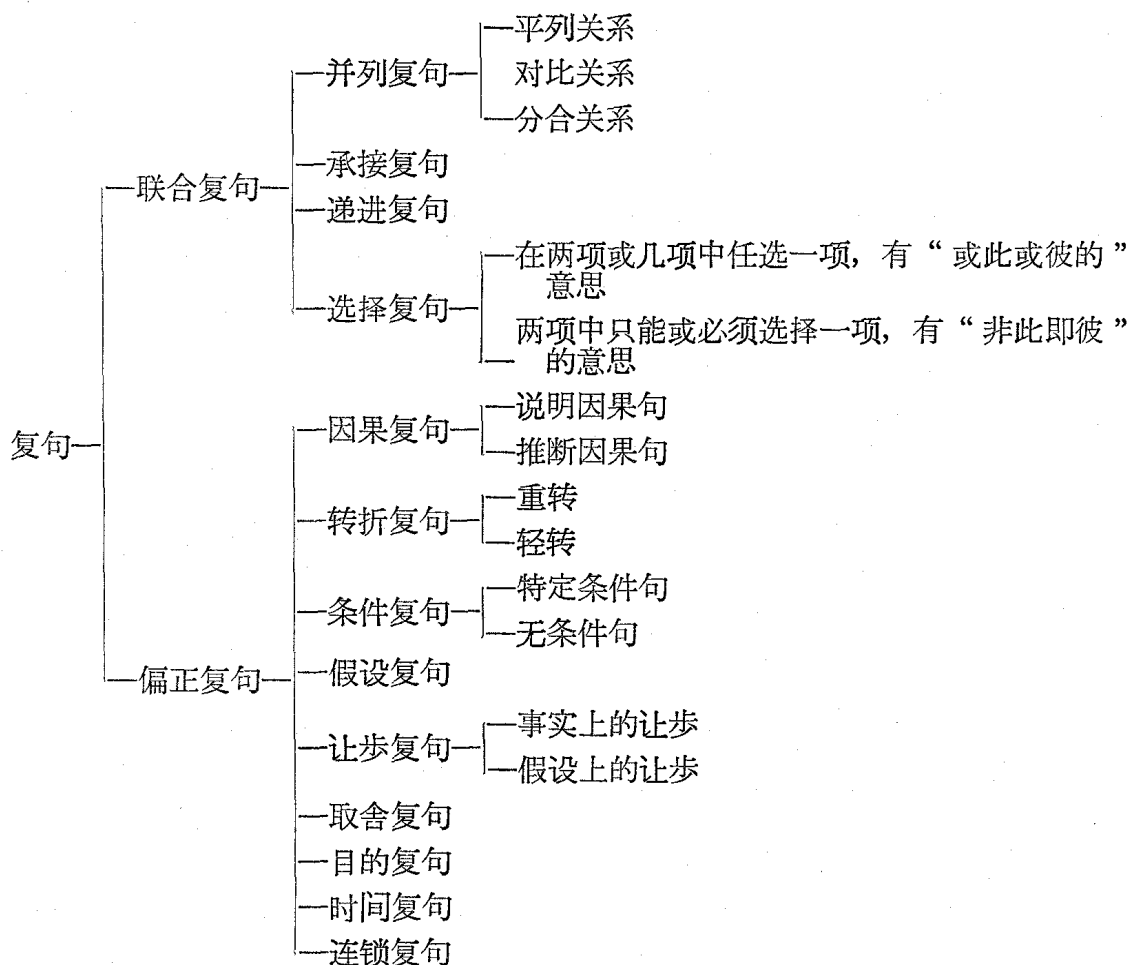
- ① 只要你肯努力，就一定能学好。(懸命に努力しさえすれば、必ずちゃんとマスターできるだろう。)
- ② 只有掌握了汉语，才能很好地研究中国文学。(中国語がマスターできてはじめて、中国文学がしっかり研究できる。)
- ③ 除非你也去，不然我才不去呢！(君も行くのでなければ、私も行かない。)

のように、文字通り「～さえすれば」、「～してはじめて」、「～でなければ」という限定された条件を表す。また、無条件文とは、

- ④ 不管有多大困难，我也要干下去。(どのような困難があろうとも、私は続けてやっていくつもりだ。)
- ⑤ 我们不论有什么事，都愿意玩他谈。  
(我々はどんなことがあっても、彼を訪ねて話をしたい。)
- ⑥ 无论谁参加我们组，我都欢迎。(誰れが我々のグループに加わろうとも、私は歓迎する。)

のように、「～とも」、「～ても」という無条件の条件を表す。日本語から言えば、いずれも中級以上の文型になってしまうし、条件の考え方が狭いように思われる。本稿で扱う、「ば」・「たら」・「なら」・「と」などは、むしろ「假设复句」(仮定複文)の中に組み入れているのである。こうした条件そのものについての考え方の相異も理解しておかなくてはならないであろう。日中間での認識の違いを表す側を挙げる。図—1は、孫群『日语句法』(吉林人民出版社 1985)の複文の分類を図示したものである。ここでは、次のような点に注意を払いたい。上位分類では「並列句」(=語合联句)・「主从句」(=偏正复句)といった現代漢語の復句分類法を採用していること。次位の分類でも並列句の下位は現代漢語の分類法を採用していること。

図—2



と。一方，主从句の分類では，「主語」(主語)・「宾语」(目的語)・「补語」(補語)・「状語」(連用修飾語)・「定语」(連体修飾語)などといった文法構造に着目した分類法を採用していること，である。図—2に示した『实用现代汉语语法』のそれと比較していただきたい。並列句で現代漢語の分類法を採用した孫群が何故分類の規準を変えたのであろうか。それは本稿のテーマとも深く係わってくるものであるし，ひいては現代漢語と日本語の構造の相異と繋がる点を持っていると言ってよいであろう。すなわち，現代漢語の分類において，復句の分類は「关联词语」(接続詞・副詞ならびにその複合語)が重視され，その意味によって分類が行われるということである。それに対して，日本語では図—3の南不二男説のように，接続詞・用言の連用形・形式名詞を分類の基準とするものもあるが，一般的に

は図-4の森岡健二説のように、節と節との関係によって分類したり、図-5の山田孝雄のように、大きな分類を示すだけのものが多い。孫群『日

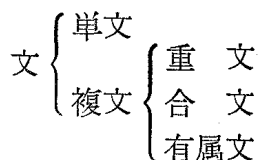
図-3

- (1) A の類  
 ~ながら(継続) ~て ~つつ 連用形の重ね型形容詞・形容動詞の連用形で終るものうちのあるもの
- (2) B の類  
 ~ので ~たら ~ても ~と ~なら ~のに ~ば ~て(原因・理由)  
 ~ながら(逆接)用言の連用形(継起的, 並列的な動作・状態) ~ずに  
 ~ないで
- (3) C の類  
 ~が ~から ~けれど(けれども, けども, けど) ~し ~て 用言の連用形

図-4

- A 有属文(狭義の複文)
  - 1. 一文節相当の節を含む文
  - 2. 述語節を含む文
  - 3. 準用節を含む文
  - 4. 連体従属節を含む文
  - 5. 引用節を含む文
- B 並列文
  - 6. 条件並立節を含む文(重文)
  - 7. 対等並立節を含む文(合文)
  - 8. 独立節を含む文
  - 9. 挿入節を含む文

図-5



『漢語の文法』では、前節と後節とが同じ比重を持つものに対しては、現代漢語の分類法を援用できたのであるが、前節・後節の比重の異なる複文については、关联词语を手掛かりとすることができないために、「主语」・「谓语」(述語)等に従って下位分類を行なったものと思われる。現代漢語には接続助詞、形式名詞は存在しないし、用言の活用もないわけである。

### 3

現代漢語において、日本語の「ば」のように、条件を表す構文として、次のような諸例が考えられる<sup>5)</sup>。

- ⑦ 你去，我不去。(君が行けば，ぼくは行きません。)
- ⑧ 明天下雨，我们就不去公园了。(あした雨が降れば，ぼくたちは公園へ行きません。)
- ⑨ 一看书就懂了。(本を読めば，わかります。)
- ⑩ 如果大家一起干，这个工作三天就能完成。(みんなで一緒にやれば，この仕事は三日で完成します。)
- ⑪ 慢慢走的话，须要三十分钟。(ゆっくり歩けば，三十分かかります。)
- ⑫ 掌握了规则就不难了。(規則をマスターすればやさしいです。)

⑦ は、关联词语が用いられていないもの。⑧ は、前件に关联词语は用いられていないが、後件には关联词语「就」が用いられているもの。⑨ は、关联词语の「一～就～」が用いられているもの。⑩ は、关联词语の「如果～就～」が用いられているもの。⑪ は、「假设助词」(假定を表す助詞)の「的话」が用いられているもの。⑫ は、「时态助词」(アスペクト助詞)の「了」が用いられているもの。

#### 5) 例文は以下の諸書によった。

陈信德编著『现代日语实用语法』(商务印书馆 1964, のち 1980 再版)王宏编著『日语助词新探』(上海译文出版社 1980)

孙舒同・王丰才编著『日语基础语法』(青海人民出版社 1980)

上海交通大学科技外语系日德语教研室编译『日语初级教程』(上海语文出版社 1981) 本書は早稲田大学語学教育研究所(当時)編『日本語教科書』の「文法解説」(英語版)を中心にして、それに独自の課文を付けたもの。

謝良宋註解『外國學生用 日本語教科書 初級(下)』(鴻儒堂出版社 1981) 本書は『日本語教科書』により、単語を漢語訳し、文法解説を少しつけたもの。

谢秀忱編『现代日语语法』(北京师范大学出版社 1981)

宋仰之著『现代日语助词手册』(科学出版社 1984)

孙群著『日语句法』(吉林人民出版社 1985)

中国人民解放军洛阳外国语学院 王日和編『日语语法』(商务印书馆 1986)

早稲田大学日本語研究教育センター編『日本語教科書』「语法解说」(中国語版「文法解説」)

なお、引用の諸例についてその書名を明記しなかった。以下、同じ。



また、「たら」は、

- ⑬ 一到春天，我们就上街上去玩儿。（春になったら，ぼくたちは町へ行きます。）
- ⑭ 如果早一点儿，可能得救了。（もし，もう少し早かったら，助かっていただろうに。）
- ⑮ 觉得冷的话，穿多些吧。（寒かったら，もっと着なさい。）
- ⑯ 到了七点钟，我们就出发吧。（七時になったら，出発しましょう。）
- ⑰ 走到外边时，（外面）已在下雨了。（外へ出たら，雨が降っていた。）
- ⑱ 工作结束后，（一起）回去吧。（仕事が終わったら，一緒に帰りましょう。）

⑬ は、关联词语の「一～就～」が用いられているもの。⑭ は、关联词语の「如果」だけが用いられているもの。⑮ は、前節に假设助词の「的话」が用いられているもの。⑯ は、时态助词の「了」と关联词语「就」が用いられているもの。⑰ は、「趋向助词」（方向助詞）の「到」が用いられているもの。⑱ は、关联词语等は用いられないが、「时间词」（時間詞）の「后」が用いられているもの。

「なら」は、

- ⑲ 我做，先从这边开始。（ぼくがやるなら，まずこっちの方から始めます。）
- ⑳ 明天下雨，就把会场搬到室内。（あした雨なら，会場を室内に移そう。）
- ㉑ 你要是去，我就去。（あなたが行くなら，ぼくも行きます。）
- ㉒ 如果听到我的意见的话，就不会这样吧。（ぼくの意見を聞いてくれたなら，こんなことにはならなかったろうに。）
- ㉓ 假如我是鸟，就飞回去，（可是）……（もし，ぼくが鳥だったなら，空を飛んで帰るのに，……）
- ㉔ 想去的话，快去吧。（行きたいなら，早く行きなさい。）

⑲ は、关联词语が用いられていないもの。㉒ は、关联词语の「就」が

用いられているもの。㉑は、关联词语の「要是～就～」が用いられているもの。㉒は、「如果～就～」と假设助词の「的话」が并せて用いられたもの。㉓は、仮定を表す关联词语の「假如～就～」が用いられているもの。㉔は、假设助词の「的话」が前節に用いられているもの。

「と」については、

- ㉕ 不吃饭，肚子要饿了。(ごはんを食べないと、おなかがすきますよ。)
- ㉖ 人民币一元换成日元，就是四十元左右。(人民幣一元を日本円に換算すると、四十円ぐらいです。)
- ㉗ 一到春天，就开花。(春が来ると、花が咲きます。)
- ㉘ 如果报名的人多，就要两辆大轿车。(希望者が多いと、バス二台必要です。)
- ㉙ 你不赶紧回家的话，(家里)会担心吧。(早く家に帰らないと、(家で)心配するでしょう。)
- ㉚ 看了这幅画，就想起去世的父亲。(この絵を見ると、死んだ父のことを思い出します。)

㉕は、关联词语が用いられていないもの。㉖は、关联词语の「就」が用いられているもの。㉗は、关联词语の「一～就～」が用いられているもの。㉘は、关联词语の「如果～就～」が用いられているもの。㉙は、假设助词の「的话」が用いられているもの。㉚は、时态助词の「了」と关联词语の「就」とが并せて用いられているもの。

以上のことを要約してみると、以下のような共通点が現れて来るであろう。すなわち、

- A 关联词语が何も用いられていないもの
- B 关联词语が用いられているもの
  - i 後件に「就」が用いられているもの
  - ii 「一～就～」・「如果 / 要是～就～」・「假如～就～」等が用いられているもの
- C 假设助词が用いられているもの

D 前件の動詞の後ろに他の成分が付加されているもののように、四種に大別できるであろう。ただ、⑦～⑩の例文を見れば分かるとおりに、こうした四種は、「ば」・「たら」・「なら」・「と」のほぼ全部に共通して現れて来る。したがって、关联词语・假设助词・助态助词等の有無だけでは、必ずしも日本語の条件句の持つ細かいニュアンスを完全に表し切れるとは言いがたいであろう。どの言語にも形式こそ違え、ある種の共通した、あるいは類似した機能があるという認識に立つならば、現代漢語にも日本語の条件句に似た機能があるであろう。以下、「ば」・「たら」・「なら」・「と」に則しながら、もう少し詳しく眺めてみたい。

#### 4

日本語の「ば」は、「本を見れば、わかります。」や「規則をマスターすれば、やさしいです。」などのように、「ば」の後ろに表現された結果についての論理的・一般的な前提条件を示す。こうした条件の下では、敢えて動作主を特定する必要がない。現代漢語においても、動作主の現れない文が成立する。先に挙げた⑨の「一看书就懂了。」、⑩の「慢慢走的话，须要三十分钟。」、⑫の「掌握了规则就不难了。」などいずれも動作主はない。

さて、「ば」の用いられた文を漢語訳する時のキーワードの一つが「就」であることは、⑦～⑫の訳出例を見ればよく分かる。「就」には、

表示承接上文，得出结论。（前文を承けて，結論を引き出すことを表す。）<sup>6)</sup>

6) 吕叔湘主编『现代汉语八百词』（商务印书馆 1981，以下、『八百词』と略称する）による。

北京大学中文系<sup>1955</sup>，级语言班编『现代汉语虚词例释』（商务印书馆 1986，以下、『虚词例释』と略称する）には、

甲・乙两事先后连续发生，在乙事中用“就”字，表示乙事紧接着甲事发生。（甲・乙二つの事柄が相前後して連続して起こる時，乙の事柄との間に「就」字を用いて，乙が甲に密着して起こることを表す。）

とあり，王自強編著『现代汉语虚词用法小词典』（上海辞书出版社 1984，以下、『虚词小词典』と略称する）では、

有“立刻”，“马上”的意思，表示立即进行或者接连发生。（「立刻」・「马上」の意味を持ち，ある動作がすぐ行われたり，続いて発生したりすることを表す。）

と言う。

といった働きがあるからである。例えば、

㉑ 登上上海大厦屋顶，就看得见市区的全景。(上海大厦の屋上に登れば，市街区の全景が見わたせる。)

㉒ 便宜就买，贵就不买。(安ければ買いますが，高ければ買いません。)のように、「登上上海大厦」・「便宜 / 贵」という前文があれば、「看得见市区的全景」・「买 / 不买」という結論が引き出されるわけである。

また、「就」は絶対条件ではなく、これが用いられなくても文は成立する。

㉓ 你去，我不去。(訳は省略)

㉔ 你去，我放心了。(君が行けば，私は安心だ。)

等、いずれもそうである。こうした文は、聯合復句でなくて、偏正復句であることが前提になる。そうでなければ、

㉓—2 你去，但我不去。(君は行くが，私は行かない。)

㉔—2 你去，但我放心了。(君は行くが，ぼくは安心だ。)

のように、聯合復句になってしまうからである(ただし、㉔—2 は論理的には少しおかしい)。聯合復句は条件を表すことができないからである。

「ば」は、ある状況が成立するための条件として、場合を限定する。こうした場合、現代漢語では、关联词语の「如果~就~」を用いることができる。

副句提出假设，主句根据这个假设推出结论。(従属節が仮定を提出する時，主節はこの仮定に基づき結論を出す。)<sup>7)</sup>

7) 『虚词例释』による。その前に、

用在主从复合句的副句中表假设，在主句中常有“常”“还”“便”“则”等与“如果”相配搭。由“如果”所引出的副句与主句间的关系有下面种情况：(偏正复句の副句中に用いられて假设を表す。主句の中では常に「就」・「还」・「便」・「则」等と「如果」とが組み合わせられて用いられる。「如果」によって引き出される従属節・主節との間の関係には以下の三種の情况である。)

と述べられる。

『八百词』では、

1. 表示假设。(仮定を表す)

として、

といった働きがあるからである。

- ⑩ 如果大家一起干，这个工作三天就能完成。（訳は省略）
- ⑭ 如果雨停了，就出门吧。（雨が止めば，出掛けよう。）
- ⑮ 如果不懂，我就教你。（分からなければ，教えてあげます。）

等の、「大家一起干」・「雨停」・「不懂」はいずれも「这尔工作三天能完成」・「出门」・「教你」の限定された条件ということになる。

同様にして，假设助词の「的话」が用いられた場合も，

- ⑪ 慢慢走的话，就须要三十分钟。（訳は省略）
- ⑯ 想看的话，就给你看吧。（見たければ，見せてあげよう。）
- ⑰ 明天天气好的话，我就去颐和园。（あした天气がよければ，颐和園へ行きます。）

のように表現することができる。何故ならば，

常常同“如果”，“假如”，“要是”，“只要”等连词配合着用，表示假设或者条件。（よく「如果」・「语如」・「要是」・「只要」等の关联词语と組み合わせられて用いられ，假定あるいは条件を表す。）<sup>8)</sup>

---

用于前一小句，后一小句推断结论或提出问题，常用‘那么，那，则，就，便’呼应。‘如果’可以省略。（前の小節に用いられ，後ろの小節は結論を類推・判断したり，問題を提出したりする。よく「那么」・「那」・「则」・「就」・「便」と呼応する。「如果」は省略することができる。）

と解説する。『虚词小词典』では，

表示假设。用在前一分句，后一分句根据它推出结论或者提出疑问。常常同“就”・“那”・“那么”等虚词配合着用。（假定を表す。前の節に用いられ，後ろの節はそれに基づいて結論を引き出したり，疑問を提出したりする。よく「就」・「那」・「那么」等の虚詞と組み合わせられて用いられる。）

と説明する。

8) 『虚词小词典』による。『虚词例释』では，

“的话”表示假设语气，放在一尔句的句尾，使其成为主从复合句中的表示假设关系的从句。…如果没有“的话”，则仅表示条件关系，加上“的话”则也含有条件关系，但主要表示假设关系。（「的话」は仮定の語気を表し，前節の末尾に置かれる。従属節と主節とから成る文において，仮定関係を表す従属節を構成する。…もし，「的话」がない場合は，条件関係を表すだけであって，「的话」を付ければ条件関係よりも仮定関係を表すことが主となる。）

と説明する。『八百词』では，

用在假设小句的末尾。（假定を表す文節の末尾に用いられる。）

として，

跟连词‘如果，假如，要是’等合用。（关联词语の「如果」・「假如」・「要是」等と組み合わせられて用いられる。）

と解説する。

といった働きを持っているからである。また、この両者が結びついた形もあるが、「的话」がない場合は、条件関係を表すという指摘があるように、「的话」のついた文は、仮定の気持ちがより強まることになる。

「たら」は、「切符が売り切れたら、…」・「外へ出たら、雨が降っていた。」などのように、「ば」と同様、条件を表す働きを持っている。この場合、前件はある場面を設定し、後半はその場面において成立する事柄が述べられる。しかも、その場面は、必然的である必要はなく、個人的・個別的なものでよい。したがって、「ば」の漢語訳に見られるような、关联词语が全く用いられない形は、あまり適当ではない。前件と後件の関係が停滞することなくスムーズであることが必要であるからである。

そこで、「就」を用いて、

⑳ 乗電車，就不要唱歌。（電車に乗たら，歌はやめなさい。）  
のようにすれば、関係はより明らかになる。その意味では、㉑の「登上上海大厦屋顶，就看得见市区的全景。」や㉒の「便宜就买，贵就不买。」は、「たら」の漢語訳としても用いることができる。しかし、逆に㉓は、「不要唱歌」が「乗電車」に対する一般的な前提とはなり得ないので、成立しないわけである。

一方、关联词语の「如果～就～」を用いて、

㉔ 如果早一点儿，可能得救了。（訳は省略）

㉕ 如果脱掉毛衣，会冷的。（セーターを脱いだら，寒いです。）

㉖ 如果做了那种事情，那可不容易地饶过你。（そんなことをしたら，それこそただではすみません。）

と訳すことができる。「如果」に場面設定の働きがあるからである。ただ、「ば」条件を表した「如果」との相異点は、动态助词の「了」を用いたり、趋向助词や结果补语を用いたものが増える点に在る。「了」には、

不独立成句，有后读小句时，表示前一动作完成后再发生后一情况，或前一情况是后一情况的假设条件。（独立した一文ではなく、後続する文

がある場合、前の動作が完成してから後ろの動作が生じたり、前の情況が後ろの情況の假定条件であることを示す。)<sup>9)</sup>

のような働きがあるため、場面設定をすることができるのである。そこで、

⑩ 到了七点钟，我们就出发吧。（訳は省略）

④① 到了站，请你告诉我一声。（駅に着いたら、どうか一声掛けてください。）

などのように用いることができる。また、趋向助詞や結果補語の場合も、動作の完成を前提とする性質があることから、場面の設定をすることができるわけである。

①⑦ 走到外边，（外边）已在下雨了。（訳は省略）

②④ 看完这本书，请借给我。（見終わったら、私に借してください。）

などのように、「たら」の持つ「ば」より強い假定の気持ちを、そうした語によって補っていることになる。

また、「たら」は、「～の時」と言い換えることができる。この点は、現代漢語でも似た部分がある。③⑧、④①は、

③⑧—2 乘电车时，就不要唱歌。（訳は省略）

④①—2 到站后，请告诉我一声。（訳は省略）

とほぼ同意であろう。

「なら」は、一般には外から入った情報ないしは話し手の意思以前に決定している事象について述べる。この時、後件で示される事柄は、前件で

---

9) 『八百词』による。『虚词例释』には、

表示悬想将要发生的事情或假设可能发生的事情完成。（これから発生するであろう事柄を想像したり、発生するであろう事柄の完成を假定することを表す。）

とある。『虚词小词典』には、

用在动词后面，表示动作已经完成，将要完成或者假定完成。可以用在并列的动词后面。（動詞の後ろに用いられ、動作がすでに完成したこと、これから完成すること、あるいは仮りに完成することを表す。並列された二つの動詞の後ろに用いることもできる。）

とある。

述べた事態以前に成立もしくは、すでに成立している事柄である。しかも、後件は話し手の意志による判断が示される。したがって、②の「如果听到我的意见的话，就不会这样了。」の文において、「这样」という現在の状態があつて、それに対して「听到我的意见」という動作があつた時には、現在の状態が起こらなかつたのに、と話し手は判断を下しているわけである。『日本語教科書』の「火曜日なら、ありがたいです。/ 星期二的话，就再好不过了。」も、「火曜日はどうですか。」などの発問があり、それ(外からの情報=伝聞)に対して、「ありがたいです」という自分の意見を述べていることになる。そして、この文も含めて、

④ 学者的话，不会说那种话吧。(学者なら，そんなことを言っこない。)

④ 如果是那件事，那我已经知道了。(そのことなら，もう知っています。)

等のように、前件はすでに「提題」化していると言ってもよい。ただ、「星期二(是)再好不过了」，「学者不会说那种话吧」，「那件事，我已经知道了」の各文とでは、ニュアンスに差が出るであろう。その差とは、伝聞に対する自己の主張があるかないかに他ならない。

さて、「なら」条件を漢語訳する場合、关联词语がない場合でも、前件が提題化していて、後件で自己主張を持つ構造になっていれば成立する。したがって、

⑦ 你去，我不去。(訳は省略)

③③ 你去，我放心了。(訳は省略)

の両例は同様の形式を持っているため、

⑦—2 君が行くなら，ぼくは行かない。

③③—2 君が行くなら，ぼくは安心だ。

のように訳すことができる。その差異は、文脈に論理的帰結があるかどうか、伝聞に対する自己の主張があるかどうかにかかってくるわけである。

关联词语の「就」だけが用いられているケースはどうであろうか。



⑧ 明天下雨，我们就<sub>レ</sub>不去公园了。（訳は省略）

⑳ 明天下雨，就把会场搬到室内吧。（訳は省略）

の両者を比べた場合、

⑧-2 あした雨なら、公園に行かない。

⑳-2 あした雨が降れば、会場を公園に移そう。

と訳すことも可能である。

关联词语の「如果 / 要是~就~」の用いられているものとして、例えば、

⑩ 如果大家一起干，这个工作三天就能完成。（訳は省略）

⑭ 如果早一点儿，可能得救了。（訳は省略）

㉑ 你要是去，我就去。（訳は省略）

がある。この中で、⑭は「なら」条件を満たすことができない。後件が自己の主張となっていないからである。それに対して、⑩、㉑は、「ば」・「たら」・「なら」の各条件に用いることができる。

假设助词「的话」を用いた、

⑪ 慢慢走的话，须要三十分钟。（訳は省略）

⑮ 觉得冷的话，穿多些吧。（訳は省略）

⑯ 公共汽车方便的话，就决定坐它去。（バスが便利なら、バスで行くことにします。）

において、三者とも「ば」・「たら」・「なら」の各条件に用いることができる。

前件の動詞の後ろに、助态助词「了」や趋向助词が着いているものについてはどうであろうか。まず、「了」について見てみる。

⑫ 掌握了规则就不难了。（訳は省略）

⑰ 到了七点钟，我们就出发吧。（訳は省略）

⑳ 到了站，请告诉我一声。（訳は省略）

の三者で、「ば」・「たら」については互換が可能であるが、「なら」条件を表すには少し無理があるように思われる。「掌握规则」・「到七点钟」・「到

站」はいずれも動詞句であって、仮定として用いる場合(場面の設定)は可能であるが、伝聞性のものを表すのがむずかしいわけである。日本語でも、「なら」に仮定性を付加するのに、「(もし)～たなら」のように、「た」を加えることがある。これと同様に、

⑫—2 如果掌握了规则就不难了。(訳は省略)

⑬—2 如果到了七点钟,我们就出发吧。(訳は省略)

⑭—2 要是到站的时候,请你告诉我一声吧。(訳は省略)

などのようにすれば、「なら」条件を満すことになるであろう。

最後に、「と」について見てみたい。「と」は、ある条件が成立した時には、次の条件が不可避的・直接的・連続的に起こることを表す。現代漢語の关联词语の中で、こうした強い繋がりを表すのに、「一～就～」が誠に応しい。

“一…就…”表示后一行为緊接前,行为发生. . . .

3 “一”含有“每一·凡是”的意思。(「一～就～」は後半の行為が前半の行為に引き続いて起こることを表す。3「一」は「每一」・「凡是」の意味を持つ<sup>10)</sup>.)

と言われる。

⑨ 一看书就懂了。(訳は省略)

⑬ 一到春天,我们就上街上去玩儿。(訳は省略)

---

10) 『虚词例释』による。『八百词』では、

一…就… 前后两尔动词不同,表示一种动作或情况出现后紧接着发生另一种动作或情况.可以共一主语,也可以分属两尔主语。(「一～就～」.前後二つの動作が異なっている時,ある動作や情況が表れた後でそれに続いて別の動作や情況が発生することを表す.その場合,同一の主語であってもよいし,二つの主語に分かれていてもよい.)

と解説し、『虚词小词典』では、

同副词“就”配合着用,表示后一尔动作紧接着前一个动作而发生。(副词「就」と組み合わせられて用いられる.後半の動作が前半の動作に続いて起こることを表す.)

と説明する。

㉓ 一到春天，就开花。（訳は省略）

㉔ 电车一停，乘客马上就下车了。（電車がとまると，乗客が降り始めた。）

㉑ は、「本を読めば，わかります。」のように、「ば」条件の例文として挙げたものであるが、「看书」と「懂」という動作が直接的，連続的に行われる時は、「本を読むと，（すぐ）分かる。」の意味にも用いることができる。同様にして，㉒ は「たら」の例文であるが，「春が来ると，花が咲く。」の意味にもとれる。「ば」条件の場合，前件・後件がスムーズであればいいからである。また「たら」条件の場合，前件が成立し，後件が生起するというメカニズムがある。㉒ の例は前件と後件の関係がスピーディーに展開された例である。㉑～㉔ の例の中に，「なら」条件がないのは，「なら」条件には，前件・後件の繋がりの緊密性を要求する度合が薄いからである。

次に，关联词语の有無から見てゆこう。

（本文）城市（高度）发展，会带来各种问题。（訳は省略）

㉕ 不吃饭，肚子要饿了。（訳は省略）

㉖ 把书译成日语，该怎么说呢？（本を日本語に訳すと，どう言いますか。）

㉗ 到家时，天已黑了。（家に帰ると，日がすっかり暮れていた。）

などのような場合はどうであろうか。㉕ は，「不吃饭」という動作があると，必然的に「肚子饿」という状態が起こるわけであるし，構文上でも，「要～了」という将然態を採っているため，動作の直接性は明らかになっている。また，㉕ は，「ば」条件を表すこともできるが，これも「ば」が論理・理屈を表しているからである。㉖ は，前件が成立した時，必ず成立する結果を表す（この場合，疑問文である）「と」が適當である。また，㉗ では，行為・現象の転換を表す。これも「と」が応しいことになる。なお，㉗ を，

㉔—2 到了家，天已黑了。（訳は省略）

—3 到了家，天就黑了。（訳は省略）

としても、時態助詞の「了」が持つ、動作完成の力を得ることによって、前件が起きた後で、後件が連続的に起きることを表すことができる。ただ、ニュアンスとしては、「已」と「就」の違いがあるであろう。—2の方は、「家に着くと」、「日はすでに暮れていた」のであり、—3の方は、「家に着くと」、「それと時を同じくして日が暮れた」のである。

一方、㉔の「到了七点钟，我们就出发吧」、㉕の「到了站，请告诉我一声」は、ともに前件と後件が連続していないため、「と」条件を表しにくい。すなわち、七時になって行われる動作は「出発する」こととは限らないし、「駅に着」いてから行われる動作も、相手に「声をかけ」てもらふこととは限らないのである。こうした恣意的に行われる動作については、「たら」条件が応しいことになる。

次いで、关联词语が用いられているものを見てみたい。「と」条件を表すのに、「一～就～」を除いた他の关联词语を捜すのは、なかなかむずかしい。しかし、

㉔ 如果报名人数多，就要两辆大轿车。（訳は省略）

㉕ 要是找到合适的房子就好了。（いい家が見つかるといいね。）

㉖ 如果观察太阳表面，就可以看出黑子数量周期性的增减。（太陽の表面を観察していると、周期的に黒点の数が増減する。）

のような例もないわけではない。この場合、「と」条件が成立するためには、前件と後件が緊密な繋がりを持っていなくてはならない。㉔は、「応募者が多い」ということと、「バス二台が要る」ということは、バスの定員が決っていて、ある人数以上になると、台数を増やすという決りがあるため、機械的に増輛されるなども文脈がある場合は可能であろう。㉕は、前件と後件の関係が実に緊密である。形式から言えば、日本語でも、「と」の後ろに好悪を表す形容詞を用いた構文がある。「要是」があることによって、仮定性は強まるとしても、後件が形容詞だけである点で、類似点を

持つと言える。

## 5

以上、日本語の「ば」・「たら」・「なら」・「と」に対応する現代漢語の表現について眺めて来た。3でも指摘したように、現代漢語では、条件句を表すのに大きく分けて、关联词语が用いられていないもの、用いられているもの、その他の要素を含むものの三種の構造を取ることが了解された。ただ、その間の相互関係については、必ずしも日本語の「ば」・「たら」・「なら」・「と」が負っているような明確なものではなく、かねての予想どおり、文脈によってその使い分けがなされていることが改めて確認されたと言ってよい。現代漢語で文脈を読む一つの鍵は、副詞とその修飾関係にある動詞・形容詞にあるわけであるが、本稿では遺憾ながらその視点が生かし切れなかった。文脈についての詳しい分析とともに、今後の課題としたい。ここでは、漢語系学生がこうした日本語の条件句に学習上の困難を感じる原因の一つに、漢語の持つ根源的構造、すなわち、文の細かいニュアンスを決定するのが、虚詞(副用語)であること、が存在していることを指摘しておきたい。日本語教育の現場にそれをどのように利用したらよいか等の点についても、後稿を期することとしたいが、彼らの誤用例を目にした時の参考になれば、と思う。

なお、個々の事項については、いちいち挙げることをしなかったが、日本語の条件句の分類に関して、森田良行『日本語の類意表現』(創拓社 1988)ならびに同『基礎日本語辞典』(角川書店 1989)に多大な学恩を蒙ったことを記し、謝意としたい。

本稿は昭和63年度課題研究：「漢語詞匯含義研究並びに漢語含義教授法研究」の一環である。